



企業訪問レポート

国産にこだわり、子どもたちに高品質のスクールニットを届ける

株式会社堀川ニット 奈良県橿原市

1963年創業のニットメーカー、株式会社堀川ニットは、学校制服向けのベストやセーター、カーディガン等の「スクールニット」を主力製品としている。

同社は短納期と高品質を実現するため、国内生産にこだわる。スクールニットに関する多様なニーズへの柔軟な対応力と、納期を厳守する姿勢は、取引先からも厚い信頼を得ている。

増加する同社製スクールニットの需要に応えるため、2014年に工場を新築移転し、さらなる効率化と短納期化を実現。「早く、美しく、確実」をモットーに、高品質の制服を届け続ける。

会社概要



会社名：株式会社堀川ニット
所在地：奈良県橿原市新堂町 61-1
電話：0744-23-7348
FAX：0744-23-6043
創業：1963（昭和38）年
設立：1996（平成8）年
代表者：代表取締役 堀川 健一
資本金：1,000万円
従業員：45名（パート含む）
事業内容：スクールニットの製造

肌着の編立工場として創業

株式会社堀川ニットは、1963年、現会長の堀川正博氏（70歳）が肌着の編立（糸をループ状に連ねて生地にすること）工場として個人創業。その後、子ども向けセーター、ナースカーディガン等の製造を手掛け、編立、裁断、縫製を経て製品に仕上げる技術を磨いた。

1978年、商社から学校制服向けのセーター製造の商談が舞い込み、製造を開始。1980年代に入り制服のファッション化が進む中で、ベスト、セーター、カーディガン等の「スクールニット」が同社の主力製品に成長した。2014年には同社製スクールニットへの需要増加に応えるため新工場を設立、生産の効率化を実現している。

現在、同社製品は商社・学生服メーカーを経由して、北海道から沖縄まで全国1,000校以上の学校で採用されている。

多品種少量生産が特徴のスクールニット

スクールニット等の制服は、多品種少量生産が特徴である。学校によりデザインが異なるのは当然のこと、各人の体型にフィットする必要があるため、サイズ展開も一般的な洋服に比べて細かい。

また納期の大半が入学前に集中する一方で、追加生産の注文には、たとえ1着からでも柔軟に対応する必要がある。求められる品質も高いことから、同社は国内生産にこだわる。一貫生産体制を整え、追加生産なら

ば、朝に受注した製品をすぐに生産し、最短で夕方に出荷できるほどに、即応体制を強化している。



同社のスクールニット（一例）



2014年に新築移転した本社事務所・工場（上）



セット工場（仕上げ工程を行っている）（左）

顧客ニーズに柔軟に対応できる生産体制

「納期を厳守しながら、仕様書通り正確に一つ一つの製品を仕上げるためには、編立から縫製、仕上げ、検品・出荷まで、各工程間の緊密な連携が不可欠。情報共有と生産の効率化を図るため、数百件以上の進行中案件を納期別に進捗管理する資料を作成し、それをもとに週二回の『早朝会議』を実施している」と語るのは、堀川正博会長の長男で2012年に社業を継承した堀川健一氏（43歳）である。

「新しい製品企画の話が来たとき、その場ですぐにサンプルを製作できる」（堀川社長）との言葉通り、スクールニットに関する多様なニーズに柔軟に対応し、かつ納期を厳守する同社の姿勢は、取引先からの信頼感を高め、安定した受注につながっている。

いつでも「同じものを作る」体制が強み

一般的に、繊維産業は人手を要する工程が多く、高齢化や人手不足で安定的な生産に支障をきたしているケースが見られる。

そんな中、同社従業員の平均年齢は30歳代（パート含む）と同業他社に比べて若い。コンピュータ編立機を用いて省人化を図る一方で、縫製等の人手のかかる工程を若年者が支えている。

特に、袖や襟等のパーツを美しく繋ぎ合わせる「リンクング」は、ニットの網目一つ一つを針に

かける細かい作業への熟練を要するため、人材確保に苦勞する企業が多い。

同社においては、リンクング工程に若年女性が多く従事し、安定的な生産体制を実現している。また、機械でリンクングを行う新たな手法を開発し特許出願も行っている。

堀川社長は「同じ糸でも太さや染色は微妙に異なり、編立で仕上がりは異なるが、学校制服はいつでも同じ品質、色、風合いのものを作らねばならない。均質な商品を、必要な量だけ生産できる体制が自社の強み」だと語る。

生産ネットワークを強化し成長を続ける

「いくら一貫生産体制を整えても、外注さんなしでは仕事は回らない」と語る堀川社長は、外注先への配慮を心掛ける。たとえ注文の少ない時期であっても、協力工場や内職には自社より優先して仕事を回すよう努め、関係を強化する。一方で、外注先を3人の専門スタッフが巡回し、仕事の優先順位等を具体的に指示することで、正確な生産管理に努めている。

同社は、新しい仕事を手掛けながらも、あくまでスクールニットを事業の中核に据える。「早く、美しく、確実」をモットーに、多品種少量生産・短納期への対応力を磨くことで、日本製の高品質な制服を子どもたちに届け続ける。

（太田宜志、吉村謙一）

新工場内に整然と並ぶ20台のコンピュータ編立機（右）



コンピュータにデザインを入力し、各編立機に生産指示を出す（左）

網目一つ一つを針にかけ、細かい作業への熟練を要するリンクング工程（右）



検品工程ではルーペを用い、万一の製品不良や糸くずを細かくチェック（左）